

[調査研究]

原本稿本名家書入手沢本について(その1)

—— 東北大学附属図書館 和漢書貴重図書目録の周辺 ——

大原 理恵

1. はじめに

本稿は、前稿¹に引き続き、平成17年度版『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』の補足を記すものである。平成17年度版目録は貴重図書を「古写本・古刊本」「原本稿本名家書入手沢本」「書画画図」「稀本」に分けている。今回は「原本稿本名家書入手沢本」を対象とする。

大正2(1913)年9月東北大学開学記念で展示された図書資料(狩野文庫)は、古写本・古刊本・名家自筆本を中心としていたが²、これらが「原本稿本名家書入手沢本」の分類に引き継がれている。その意味から、また分量からも別置本・現在の貴重図書の中核をなす部分ともいえる。展示資料は、狩野亨吉氏から他の資料に先立って送られてきたものであり、その資料についての判断は狩野氏によるところが大きく、それが目録記述にも反映している。

「原本稿本」という名称は、その資料が「著者自筆の」「唯一の」「最も根本的な・信頼のできる」資料である、というような期待を抱かせる。しかし長年狩野文庫の整理にあたった矢島玄亮氏は、『別置本目録』の名家の稿本が普通書とされている例をいくつかあげ、また「原本」の曖昧性を指摘する。

[同じ資料について]原本が幾部もあるわけである。(中略)原本の中には、稿本も清書本も板下本もあるし、又活版の源となつた写本もある。其他書写者の判子でもあると原本と称される可能性が強い。此が原本の範囲のあいまいさを強めているが、

「狩野文庫について－在館33年の思い出－」矢島玄亮
『MAUL 宮城県大学図書館協会会報』27 1966年4月 10頁

この分類の資料の性質は実に多様である。著者ではなく、門下や家族の筆跡という場合もある。本人の自筆本(伝承も含めて)が複数存在することが確認されている例もある。著述のように整理されたものではなく雑記に近いもの、ほとんど他の書籍からの抜書であるものもある。日記・記録類もここに分類している。また、東北大学附属図書館が所蔵するのは全体の一部分であって、他館に別の部分が所蔵されている資料も、確認されている。調査研究の結果、「原本稿本」と称すべきものではないとされた資料、貴重性が疑問視されている資料もあるが、平成17年度版目録編纂時はそうした場合でも、貴重図書指定を解除することはしなかった。

とはいえ、この分類には雑多ではあるが豊かな内容が含まれており、今後の調査研究に期待される部分も大きい。一方、一般的な書誌記述のみでは、資料の性質・内容が推察困難であり、これも利用促進の課題となるところである。

また、矢島氏が指摘する、同じ著者の関連資料が普通書とされている点については、平成17年度版目録編纂時に、いくつかの資料を貴重図書に追加指定した。しかし、なお未指定の資料も多い。

これに関連するのは「特別本」³の問題である。名家本の場合、たとえば自筆資料は別置本(貴重図書)、書入本は特別本、旧蔵書は普通本、あるいは主要著書の稿本については別置本、その他は特別本と評価したのではないかと推定されるものがある。しかし、現在「特別本」については、利用面・保管面ともに、特別な規定はなく、目録にも記述されず、現段階での特別本目録は作成されていない⁴。本稿では、参考として「特別本」とされた名家関連書についてあわせて記

1 「浮世草紙・遊里本・諸種稀本について —和漢書貴重図書目録の周辺—」大原理恵 『東北大学附属図書館調査研究室年報』9 東北大学附属図書館 2022年6月

2 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について (一)—昭和11年版『和漢書別置本目録 未定稿』刊行とその周辺—」大原理恵 『東北大学史料館紀要』8 2013年3月 72-75頁

3 同上「特別本と別置本」79頁- 参照。

4 昭和10(1935)年に館内用(推定)目録が作成されている。同上 82頁参照。

述することとした。

狩野文庫は、資料の由来が明らかではないという課題がある。本来まとまっていたと推定される資料が、分類によって再編され混配状態となっていることも少なくない。矢島氏が調査をまとめた『東北大学附属図書館蔵 諸家自筆本及び書入本目録稿 和漢書』矢島玄亮編 東北大学附属図書館 1963年 謄写版 が、これらの課題についての基礎資料である。

2. 「原本稿本名家書入手沢本」の目録構成と記述

平成17年度版で「原本稿本名家書入手沢本」については、大幅な構成の変更を行った。『別置本目録』の、「原本稿本」の分類は、「儒家釈家」「和学者」「諸家」に分かれ、それぞれ著者名の五十音順に配列する。この分類は、著作の内容や、本文の種類(漢文・和文)等にも対応しているため、理由のある分類ではあるのだが、実際には近代の著作も含まれ、個別にみるならば、「儒家」の著が和歌集、「和学者」の著が蘭学関係資料であるなど著述活動は多方面である。また、著者で配列しているため、著者名の採り方によって変動が大きくなり、たとえば 診病奇佗 伊4-344 は「三松齋(多紀元堅)」著として「(諸家)篠田仙果」の前に、掌記 伊4-360は「丹波(多紀)元簡(桂山)」著として「(諸家)中村正直」の後⁵⁾にある。

これらの問題を検討し、平成17年度版目録においては、「儒家釈家」「和学者」「諸家」の分類を外し、著者名の五十音順配列も行わないこととした。目次では主な著作者の名を示した(図1)。

ただ、平成17年度版目録⁶⁾の配列・構成は煩雑なものとなった(図2-1~6)。大きく3部分からなる。まず、15頁(図2-3)「遠藤靄軒」までは、人物(個人や一族・関係者)によって資料をまとめ、配列している。厳密ではないが、方針としては年代順である。叢書の資料が多く、また貴重書目録に掲載したものは少量であっても、特別本・普通本の中に関連資料が多数含まれている場合もある。

目録15頁(図2-3)「随筆類」以降は、内容によって資料をまとめて配列するようにしている。この部分には、著者が確定できないものも含まれている。16頁-17頁(図2-4)に仙台藩

関係資料を集めており(『読史筆録』~『多賀城碑考』)、その中ではまた人物(桜田・大槻等)で整理している。この部分は狩野文庫以外から選定された資料が多い。

19頁(図2-5 左)(『本朝編年小史』以下)は、原本稿本ではない、名家写本・書入本を中心としている。また、有職故実や古典の注釈考証類が多く、「古写本古刊本」の分類と合わせて検索することを想定した。

著者名	頁数
秀啓	一〇
山本北山	一一
藤家良道	一二
鶴峯茂申	一三
古賀精里	一四
鹽田隠齋	一五
小谷果松	一六
高橋復齋	一七
奥宮徳齋・曉峯	一八
東條一堂	一九
畠山健齋	二〇
遠藤靄軒	二一
佐藤硯湖	二二
富樫廣臨	二三
度會末雅	二四
多紀元簡	二五
本多利明	二六
櫻田景迪	二七
村尾元長	二八
中村敬宇	二九
大槻文彦	三〇
荒砥武伴	三一
奥村幾跡庵	三二
稻葉通邦	三三
待谷桃齋	三四
岡本保孝	三五
猪飼敬所	三六
多紀元堅	三七

図1 目次

目録記述の方針について記す。原本・稿本・書入本については全体に書誌記述は簡略になっている。大きさは原本稿本の性質上、1点に大きさの異なる紙が使われている場合も少なくないことなどから、省略した。資料名は、旧蔵者または図書館による名称も含まれている。著者名は『別置本目録』においては本名を用いることを原則としているため、名家といいつながら一般に知られた呼称ではないことが多いが、この原則を踏襲している。刊写については『別置本目録』では、原本稿本の場合分類から写本であることが自明であるので特に記述がないが、平成17年度版目録では、データベース化が見込まれていたため「写本」の記述を追加した。装丁も、稿本などには仮綴もしばしばみられるが、記載していない。本来仮綴であっても、旧蔵者または図書館で表紙を補い綴じ直していることもある。

重点を置いたのは、原本・稿本と判断する根拠となったと思われる事項、印・蔵書印・罫紙の柱の文字等である。また、『別置本目録』においては、叢書類の細目が省略されている場合があるが、これを補うようにした。このため1点の資料でも、記述分量が極端に多いものがある。

5 最初「丹波」をニワとよんだのであろうか。11年版人名索引では「た」に入れる。

6 東北大学機関リポジトリTOURで画像を閲覧することができる。
<https://tohoku.repo.nii.ac.jp/records/135824> 図2は、構成のイメージを示すもので、不鮮明な画像を使っている。

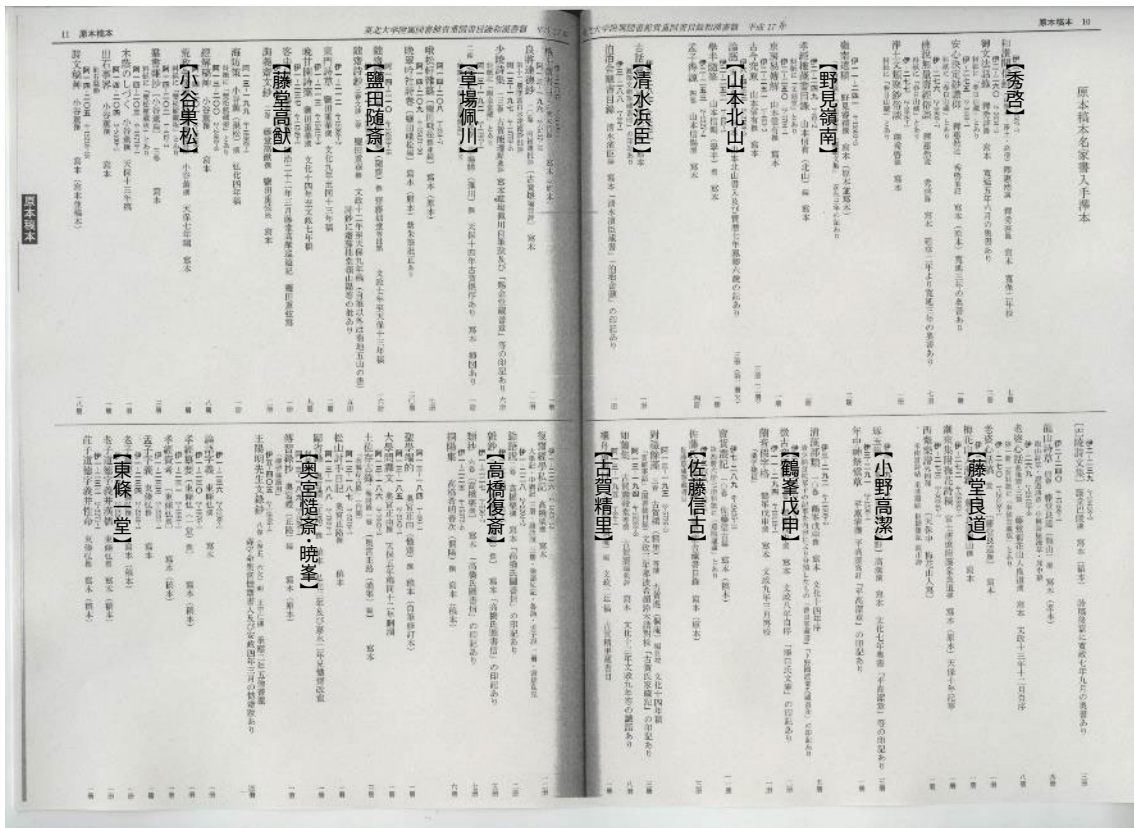


図 2-1 平成 17 年度『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』10-11 頁

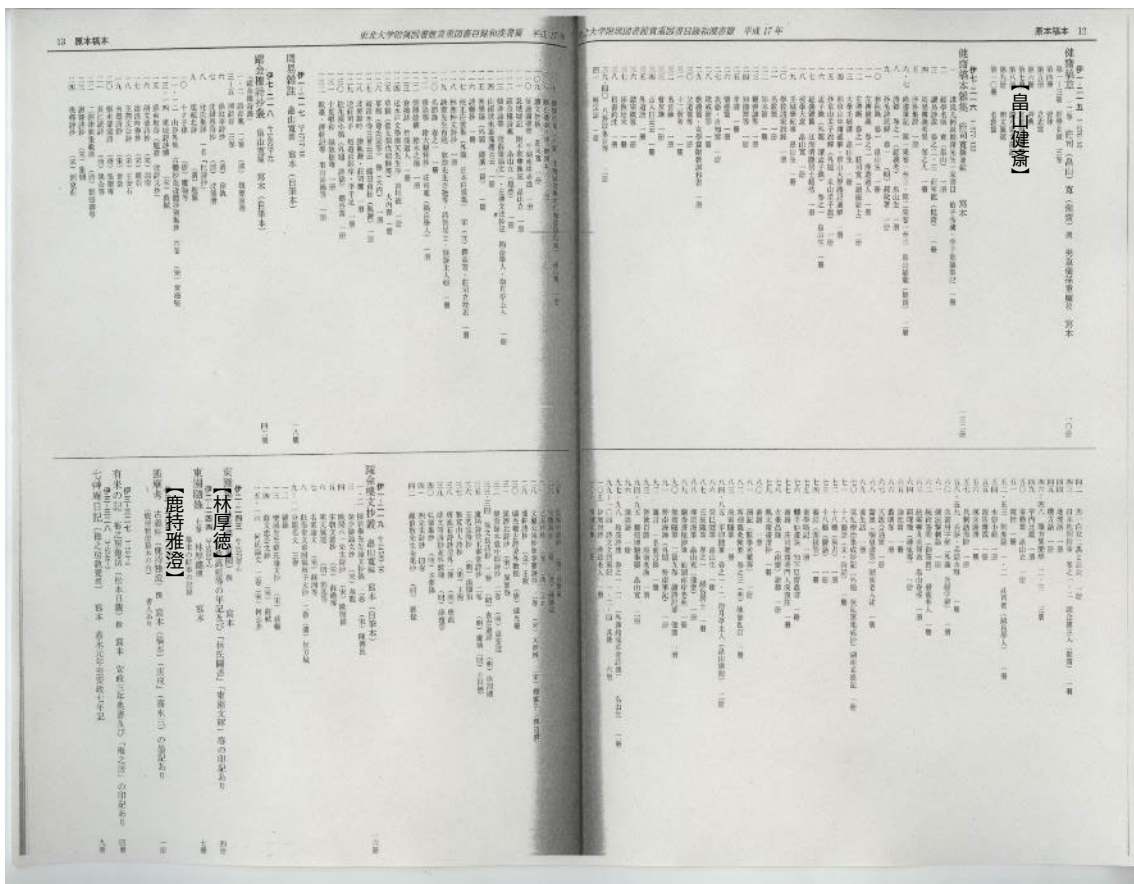


図 2-2 同 12-13 頁

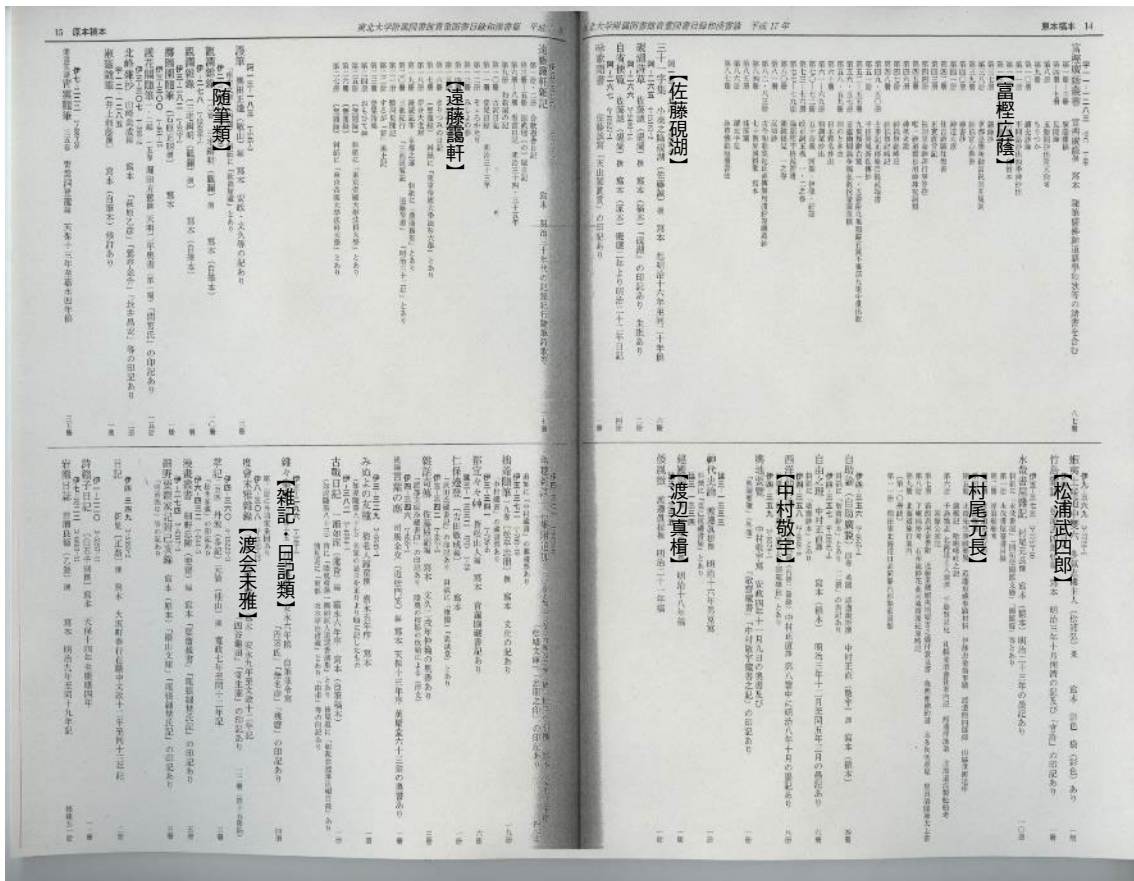


図 2-3 同 14-15 頁

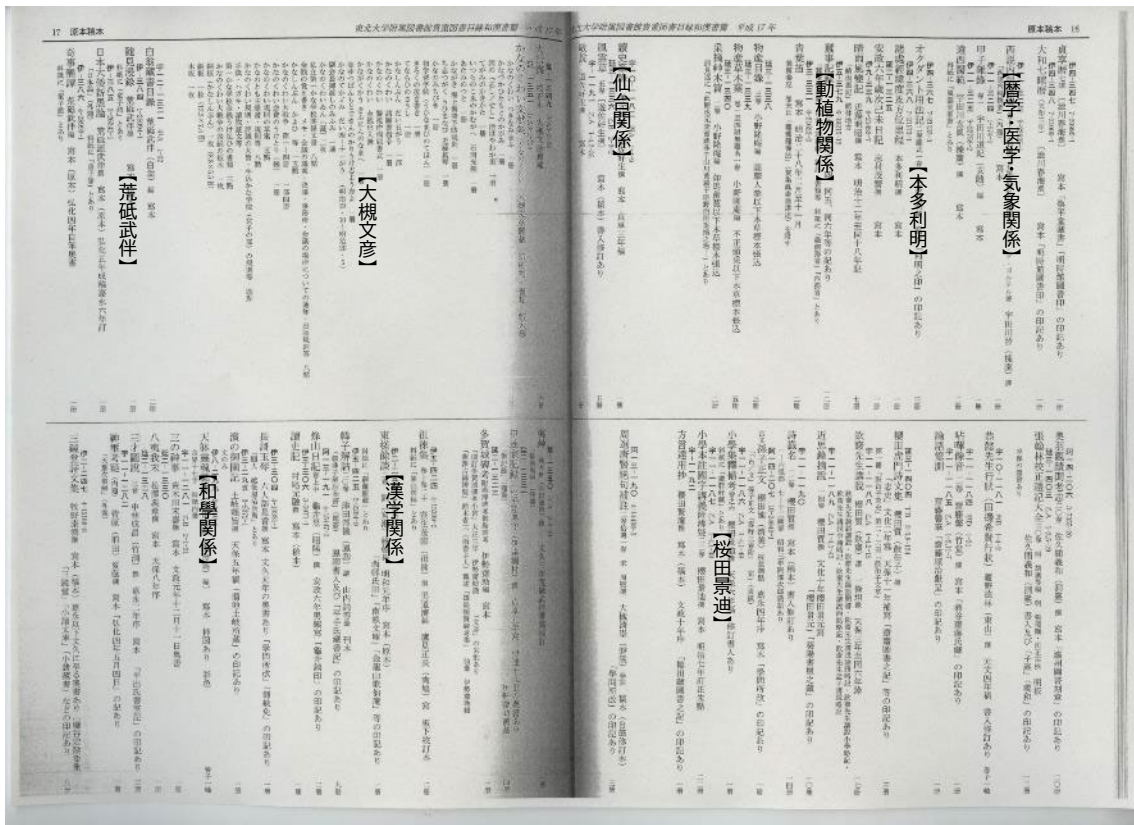


図 2-4 同 16-17 頁

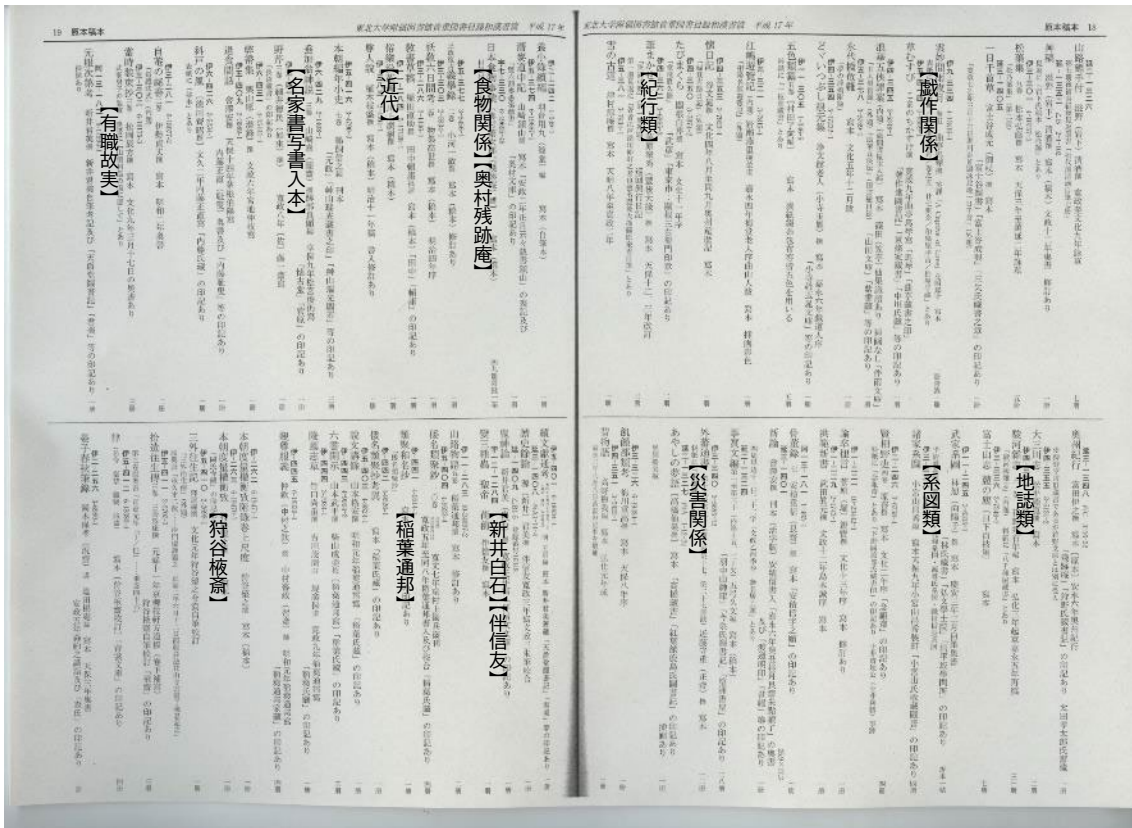


図 2-5 同 18-19 頁

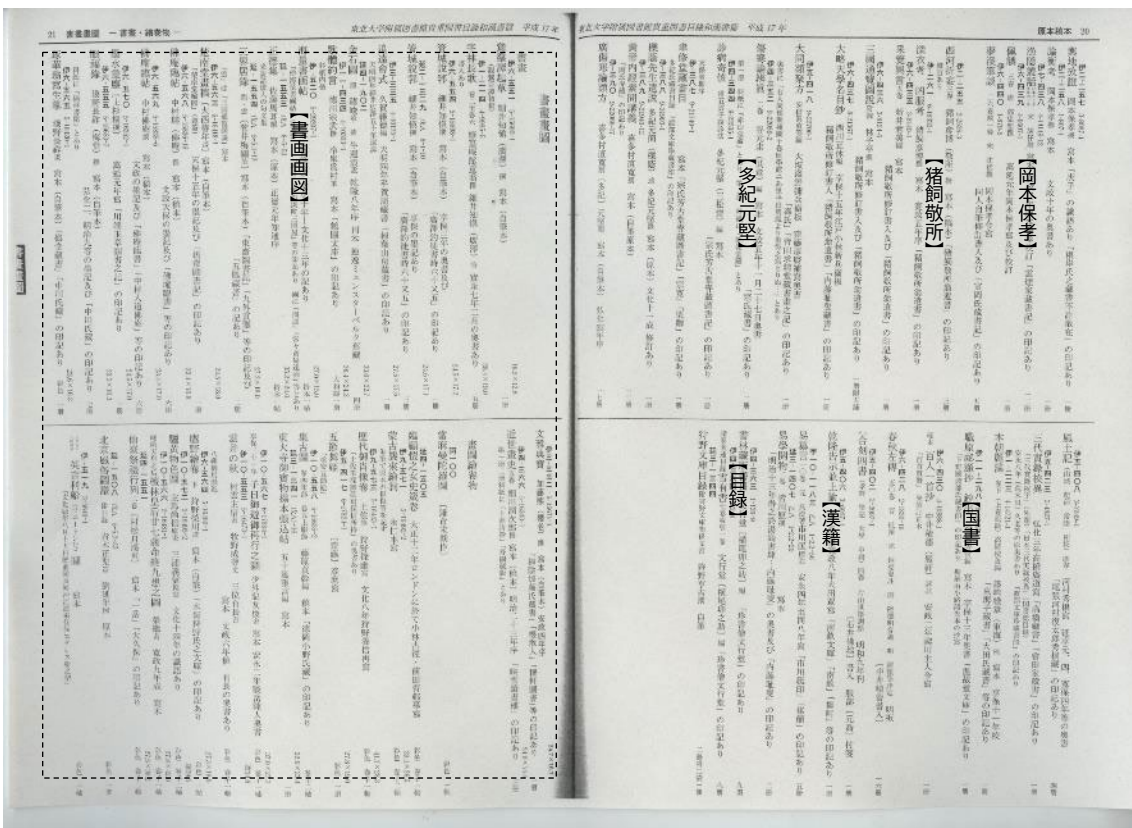


図 2-6 同 20-21 頁

以下に、個別の人物・資料につき注意事項・課題等を記す。

述が見える。奥宮慥齋については、本稿33頁参照。

【釈秀啓】

『別置本目録』では釈家の場合「釈」を姓として扱っており、平成17年度版目録でもそれを踏襲している。

和讃聞信鈔 伊2-259 の資料名は、帙題簽・昭和11年『別置本目録』は「三帖和讃聞信鈔」とし、『国書総目録』も同様であるから、この名称を併記すべきであった。昭和36年度版『別置本目録』は「和讃聞信鈔」。御文法話録 伊2-260 は「寛延五年六月」奥書としている。これは、昭和11年・昭和36年『別置本目録』の記述を踏襲したものだが、寛延は四

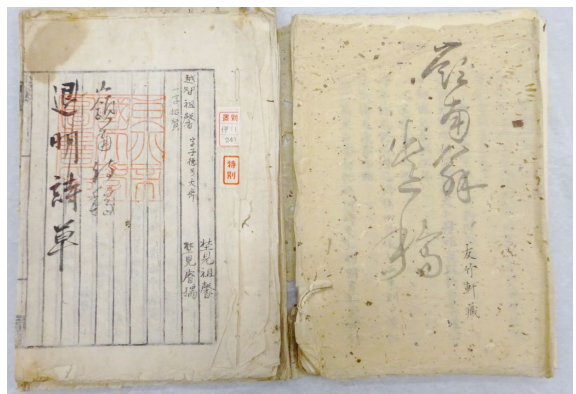


写真2 嶺南遺稿 伊11-241

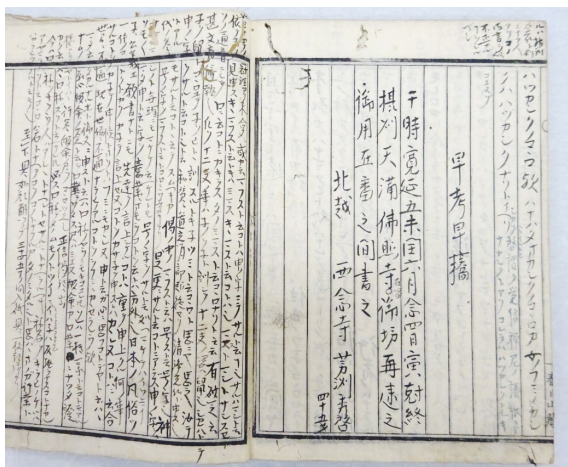


写真1 御文法和録 伊2-260 奥書

年に宝暦に改元となっている。原本は「寛延五未閏六月」とある(写真1)ので、実際には寛延四年(辛未)閏六月であったのかもしれない。

平成17年度版編纂時に、秀啓筆とされ「春日山蔵」とある刷罫紙を用いた 安心決定鈔讃仰 伊-275 狩2-3449-1 佛説無量壽經俗談 伊-276 狩2-3603-7 ※国書総目録「無量壽經俗談」浄土文類聚鈔俗談 伊-277 狩2-3659-1 を一連のものとして推定し、あわせて追加指定した。

【野見睿孺】

3冊で1資料「嶺南遺稿」として扱っているが、各冊の名称を追加した。高知県立図書館に野見文庫を所蔵⁷。

奥宮慥齋家蔵書総目録 狩1-80-1 には、「嶺南詩稿」「蠅蜒文集」等の書名が見え「野見嶺南先生手沢本」との記

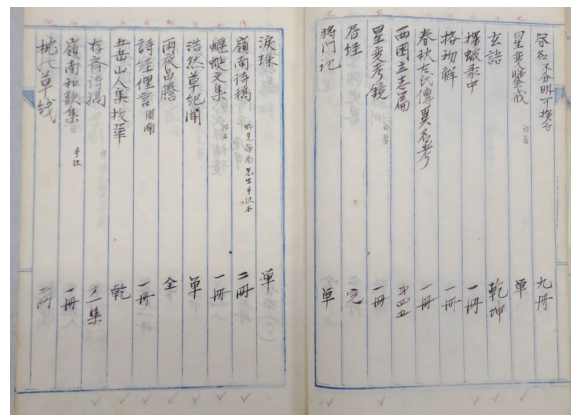


写真3 奥宮慥齋家蔵書総目録 狩1-80-1

【山本 信有・信錫】

『別置本目録』『名家書入手沢本』の分類より、山本北山書入 論語 伊6-433 をここにまとめた。

慈溪黄氏日抄分類 狩2-2336-23 は「孝経楼」の蔵書印があり(写真4)、山本北山旧蔵書とみられている。ただし、別の蔵書印を切り取ったあとに押されている。

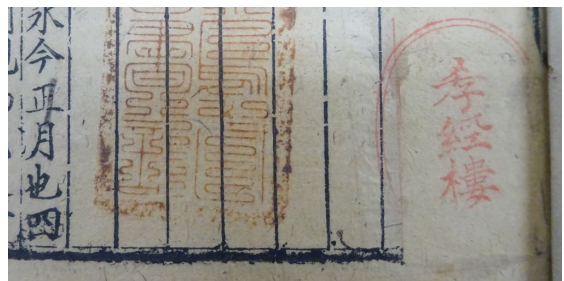


写真4 慈溪黄氏日抄分類 狩2-2336-23

7 『郷土資料目録』Ⅱ 自昭和38年10月1日至昭和44年1月31日 高知県立図書館 1969年

石公中郎先生茶譜 狩5-17496-1 は、その一部の柱に「孝経楼詩話」「学半堂蔵」とある野紙を使用(写真5)。

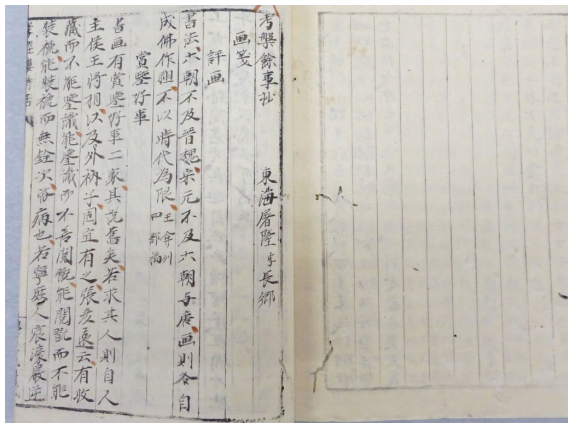


写真5 石公中郎先生茶譜 狩5-17496-1

【清水浜臣】

古話篇目 伊3-287 清水浜臣自筆と推定される『古物語目録』が慶應義塾大学にあり⁸、画像が公開されている。泊洒舎蔵書目録 伊3-288 は無窮会神習文庫に自筆本がある⁹。

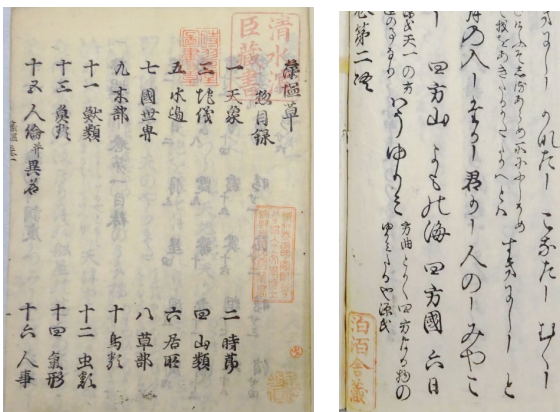


写真6 藻塩草 狩4-9510-10

藻塩草 狩4-9510-10(特別本)には、清水浜臣の蔵書印が見られる(写真6)。

【藤堂 巴陵・良道】

藤堂巴陵は良道の祖父。良道自筆と見られる 老婆心話 並後篇・三篇 伊-269 狩1-25139-8 老婆心話稿 壹 伊-270 狩1-25138-1 梅花山人漫録 伊-271 狩1-25099-1 潮來集 附梅花詩稿 伊-272 狩4-28883-1 西秦樂譜 外

四種 伊-273 狩5-30245-1 を平成17年度版編纂時に追加指定した。これらは、狩野亨吉没後昭和18年受入の狩野文庫第二期本であるため別置が見送られていた可能性がある。「梅花山人とその回想録」揖斐高『中村幸彦著述集 月報』5(『中村幸彦著述集』第11巻) 昭和57(1982)年10月 に『老婆心話』八冊本の紹介、「『老婆心話』(翻刻)その一」揖斐高マーク・ポーラ 中島穂高 小林ふみ子 瀧口恵美 堀秀巳『成蹊人文研究』6 1998年3月 に解題と書誌記述がある。この解題に紹介されているように、森銑三の著述には『老婆心話』による記述が見られる。

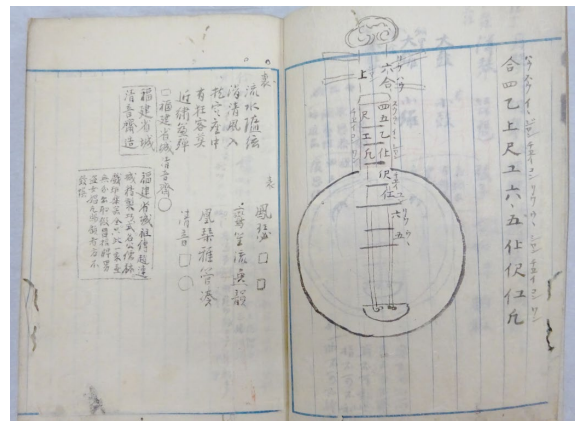


写真7 西秦樂譜 外四種 伊-273 狩5-30245-1

【平高潔】

琢玉集 伊3-290 は、九州大学附属図書館OPACによれば萩野(由之)文庫に 琢玉集 5巻追加2巻自筆本(追加上に「文化七年二月廿四五両日書之 平高潔」)がある。また、三才雜録(竹双隨筆)狩1-25016-21(特別本)写本(自筆本)(小野)高尚 は高潔の父 小野高尚の自筆本とされる。

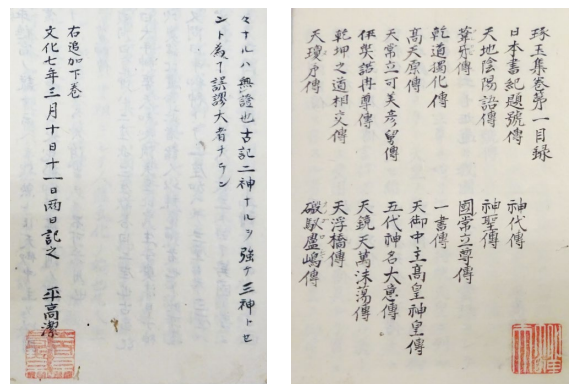


写真8 琢玉集 伊3-290

8『慶應義塾図書館和漢貴重書目録』慶應義塾図書館 2009年 62頁 <https://dcollections.lib.keio.ac.jp/ja/kokusyo/110x-230-1> に画像を公開

9『神習文庫図書目録』無窮会 昭和10年 515頁

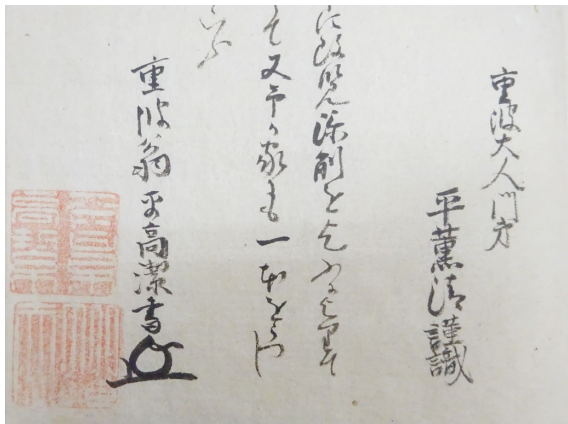


写真9 年中神祭慎草 伊3-291

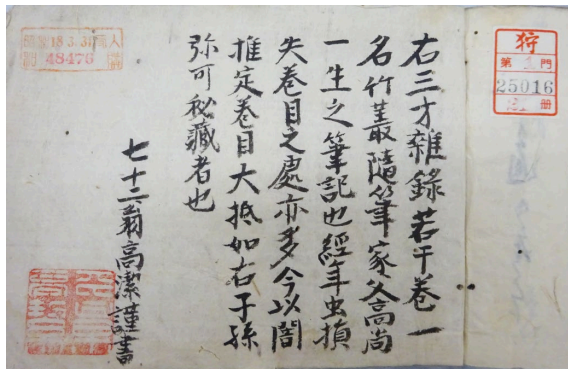


写真10 三才雜録(竹双隨筆) 狩1-25016-21

【鶴峯戊申】

清藻部類 伊3-292 は『東北大学所蔵和漢書古典分類目録』和書 1450頁 では 五言語文学 一〇日記紀行隨筆 三隨筆 に分類され、配列から鶴峯戊申自身の隨筆のように見えるが、清少納言枕草子の記事を分類したものである。『日本文化研究施設開設記念 展覧目録』東北大学文学部 昭和39(1964)年6月 31頁 は、分類は『円機活法』になっているとする。

東北大学附属図書館では、鶴峯戊申記録 甲C 1-145 原本37冊 昭10年受入・鶴峯戊申自筆稿本 甲C 1-146 稿本(自筆)18冊 昭和12年受入・鶴峯戊申草稿 甲C 1-114 原本200冊附1舗 昭和13年受入 を所蔵¹⁰する。『日本思想史研究 続』村岡典嗣 岩波書店 昭和14(1939)年「鶴峯戊申の開國思想」には「近年たまたま戊申の稿本類数十冊が市場にいで、吾人は幸ひにそれらを調査し、その中に数種上記の諸書を補ふべきものを求め得」(昭和13年10月7日稿)286頁 とある。「狩野文庫について—在館33年の思い出」矢島玄亮 『MAUL 宮城県大学図書館協会会報』27 1966年4月

9頁 によると鶴峯戊申自筆稿本等は村岡〔典嗣〕館長が購入し一旦別置したが、閲覧が困難であるため後に特別本としたという。平成17年度版編纂時に再度貴重図書指定を検討したが、保管や利用の問題から指定には踏み切れなかった。その他に 根發口受 庚1-1-24 鶴峯戊申自筆 昭和11年受入 があるが、この資料は一部焼け焦げらしい跡がある。

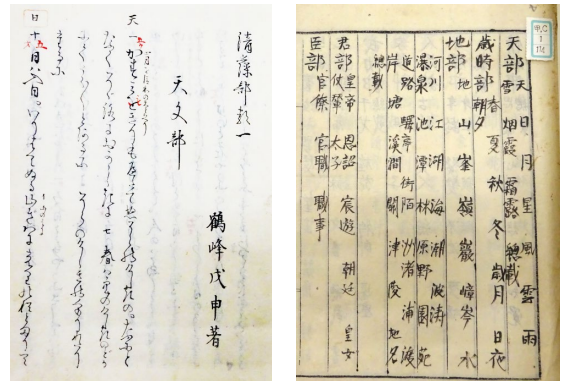


写真11 左 清藻部類 伊3-292
右 鶴峯戊申草稿 甲C 1-114-131 天部 天日月云々

「東北大学附属図書館所蔵 江戸末期の特異な学者・鶴峯戊申の著述類」玉懸博之 シリーズ貴重図書20 『木這子』25-3 平成12(2000)年12月 に紹介がある。

【佐藤信古】

佐藤氏蔵書目録 伊-268 狩1-95-3 は平成17年度版編纂時追加指定。なお本館では 佐藤信古並僊澄稿本叢書 甲C 1-135(特別本) 昭和12年受入 を所蔵するが、これも一時期別置としたか検討をした形跡がカード目録に残る。

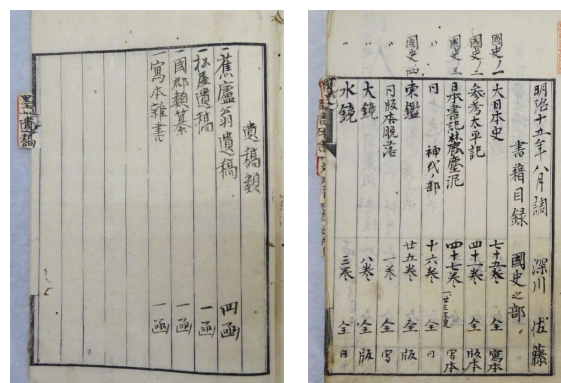


写真12 佐藤氏蔵書目録 伊-268 遺稿類に「蕉盧翁遺稿四函」とある。

10 『東北大学所蔵和漢書古典分類目録』和書 196-200頁

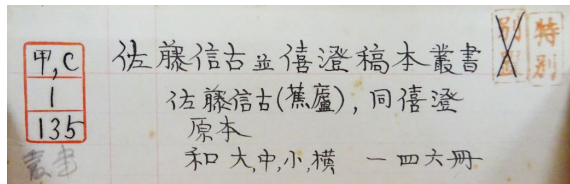


写真 13 佐藤信古並僖澄稿本叢書 甲C 1-135 カード目録

佐藤信古並僖澄稿本叢書にも目録が数点含まれている(写真14)。

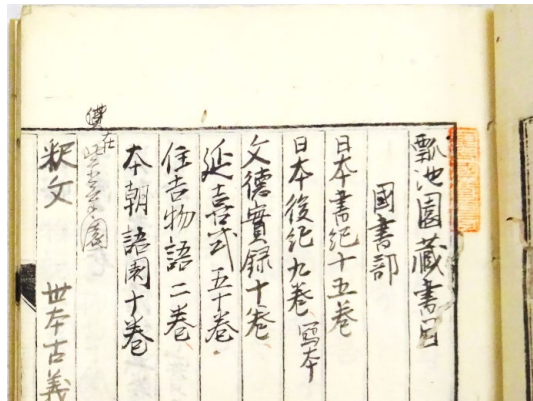


写真 14 佐藤信古並僖澄稿本叢書 甲C 1-135-63 瓢池園蔵書目録

【古賀 樸・薫・焜】

機舟齋書目 阿13-195 は別置本とされていたが、機舟齋書目 伊-268 狩1-24809-1(第二期本) を平成17年度版編纂時追加指定。『国書総目録』によれば同名の資料が

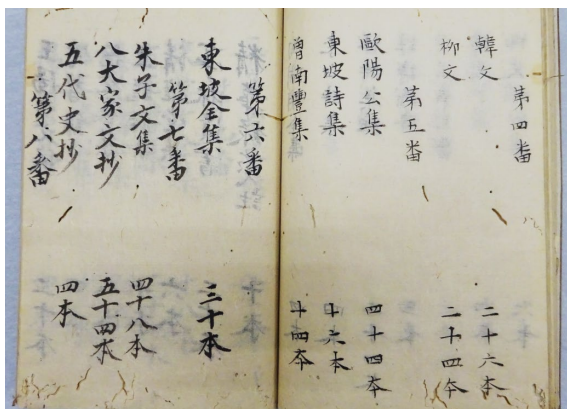


写真 15 機舟齋書目 伊-268 狩1-24809-1

龍門文庫(自筆稿本 四冊)にある。

東北大学附属図書館では 精里先生帖卷 卷子102 寛政一二年奥書 を所蔵している。平成17年版目録編纂時には、卷子本は貴重図書追加指定の検討を行うことができなかった。このことについては別稿であらためて述べる。

【古賀能遷】

少陵詩集 阿13-197には草場佩川の跋がある。

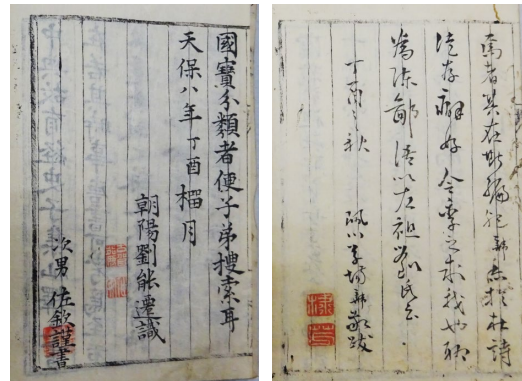


写真 16 少陵詩集 阿 13-197 古賀能遷序(左)と草場佩川跋(右)

【草場韡】

「二ノ南」毛儒の囀 阿13-192 には、挿画がいくつかあり詩経に登場する動植物が描かれている。

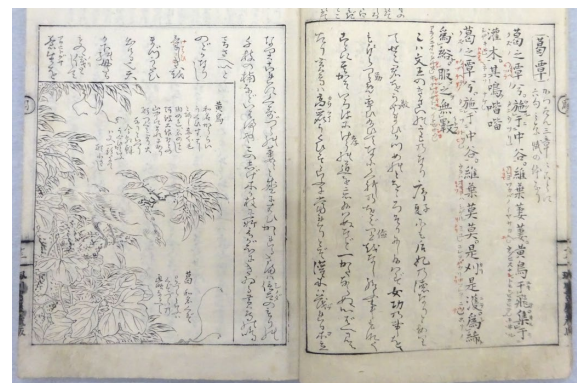


写真 17 毛儒の囀 阿 13-192

目録には記述していないが、その包み紙は、雅楽関係資料でもある。

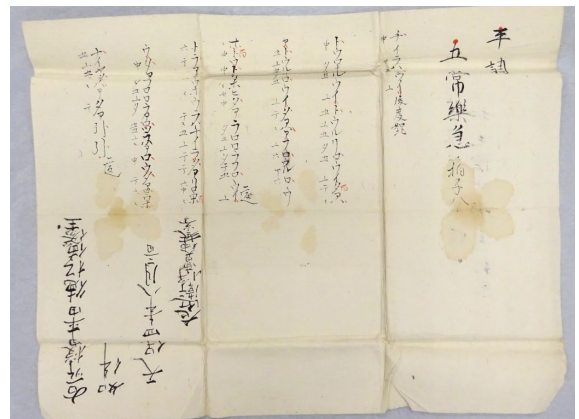


写真 18 毛儒の囀 阿 13-192 はこの紙に包まれている。

【鹽田哦松】

哦松軒雜纂 阿14-208 の一部の罫紙柱には「藤堂家」とある。晩翠吟社詩卷 阿14-209(写真19)は詩会の記録。『斯文六十年史』斯文会 昭和4(1929)年 364頁- によれば晩翠吟社は明治11(1878)年9月に向山黄村が創め、月一回詩会を行ったが、明治39年7月解散。詩卷は334輯に至り、稿本は岡崎春石が保管していたという。

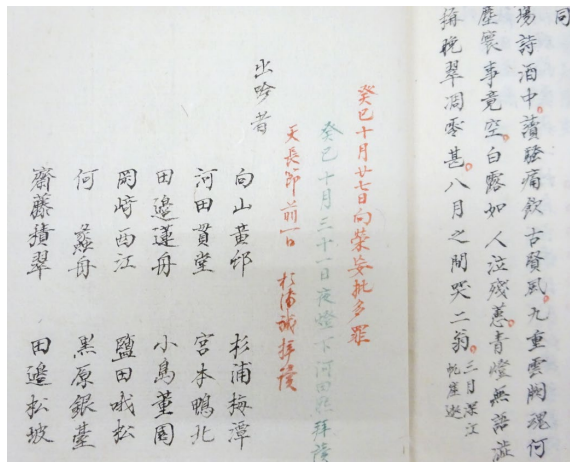


写真19 晩翠吟社詩卷 阿14-209

【鹽田重華】

隨齋詩鈔 伊1-211 昭和11年版『別置本目録』には、「文政十二至天保九年稿(自筆以外ハ菊池[マツ]五山ノ書)」「詩鈔ニ齋藤拙堂頼山陽等ノ批アリ」との記述がありそれを平成17年版まで変更していないが、原本に添えられた札(写真18)には「拙堂 山陽 花亭 棕隱 荷塘 小竹等批 其字自書ニアラサルモノハ菊池五山ノ書ナリ」と書かれており、これに従うべきであったかと思われる。

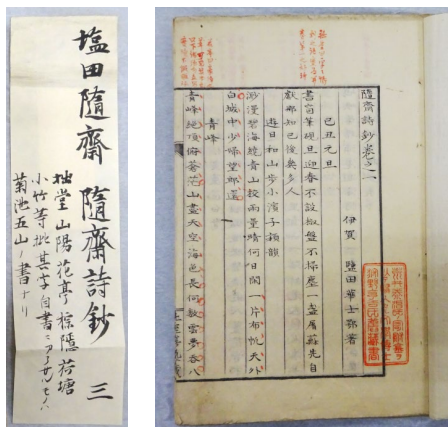


写真20 隨齋詩鈔 伊1-211 と添えられている札

【藤堂高猷・鹽田重弦】

客中日乗 伊1-237 前見返に「亨記」として解説がある。

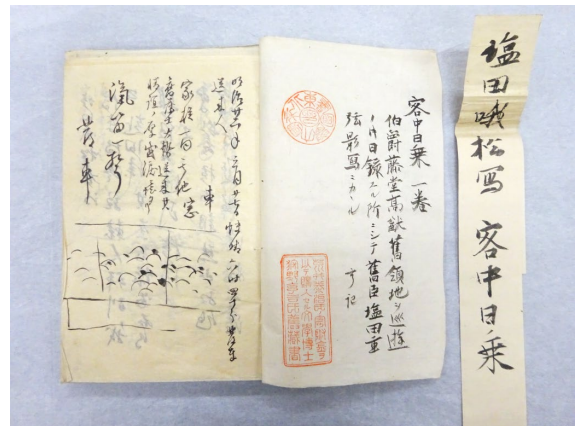


写真21 客中日乗 伊1-237

詢蕘齋文鈔 伊2-238 については、狩野文庫に刊本 詢蕘齋文鈔 4-15233-2 も所蔵するので、直接比較することができる。

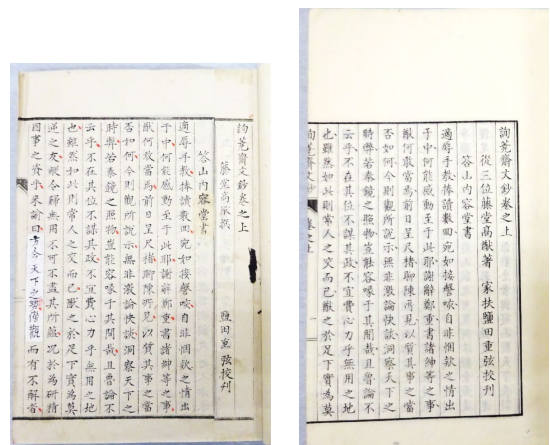


写真22 詢蕘齋文鈔 伊2-238(左) 狩4-15233-2(右)

藤堂高猷は津藩主。『諸大名の学術と文芸の研究』福井久蔵 厚生閣 昭和12(1937)年には「すべて侯の文は氣を以て成り、而も文藻見るべきものあり。容易に追隨しがたきところ、始祖は武を以て著れ、侯は文を以て著るとの評、学者の一致するところ、後明治十三[1880]年に至り、家臣鹽田重弦侯に乞ひ、その中より八十三篇をぬき詢蕘齋文鈔二巻として上梓す。」604頁 とある。

鹽田重弦関連資料は、狩野文庫に 春秋左氏傳考 狩2-1853-1 猪飼彦博 明治一七年 鹽田重弦写・明正天皇記 狩3-5417-1 榎村敬顯輯 明治二四年 鹽田重弦写 が見られる。

【小谷薫】

『国書人名辞典』では「小谷」「おたに」とするため平成17年度版目録の「人名索引」では「お」に入れたが、『別置本目録』では「こ」としている。『三重先賢伝』浅野松洞(儀史) 玄玄菘 昭和6(1931)年 では、配列から「こ」と推定されこちらが当地で伝えられている読み方¹¹であろう。

平成17年度版目録には記載がないが、経解稿舛 阿13-200 には「雙松館蔵板」・「観徳亭蔵」と柱にある罫紙、出石事畧 阿14-204 詩文稿舛 阿14-205 も「雙松館蔵板」の罫紙を用いている。



写真23 群書雑抄 阿14-202

【奥宮 正由・正路】

貴重書指定されているもののほかにも、多数の関係書が狩野文庫に含まれている。特別本では、王龍溪先生語録抄 狩2-2407-3 写本 奥宮慥斎校閲本 等がある。

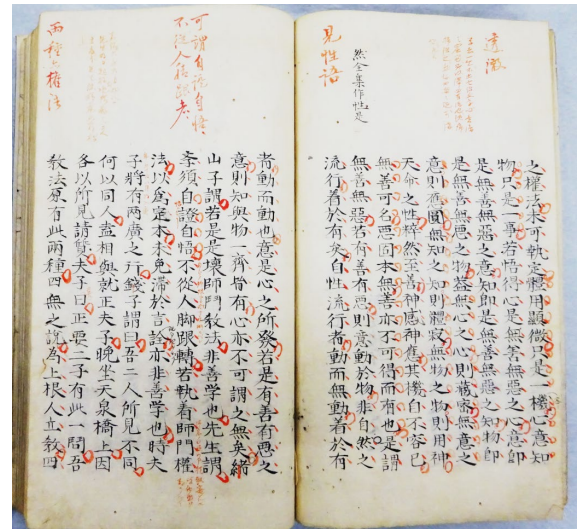


写真25 王龍溪先生語録抄 狩2-2407-3

このことは、はやくから附属図書館職員にも注目されていたという。

【高橋栗】

高橋復斎(栗)・嫡子高橋桐陽(煥)も松山藩儒である。特別本 蘭林雑鈔 狩1-553-25 には「高橋氏圖書信」の印が見られる。

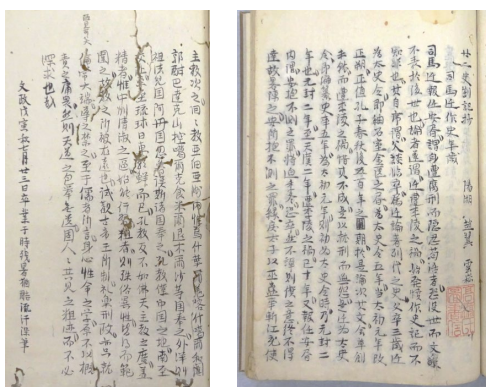


写真24 蘭林雑鈔 狩1-553-25

本館職員の大先輩で支那法制史大辞典(原名典海)の著者東川徳治氏¹²は、土佐の出身であったため、奥宮氏の著書が注意され、中には別置本となった反面、普通本としあるものもある。

「図書館学の周辺」矢島玄亮『東北地区大学図書館協議会誌』17 昭40年3月 「名家の書入本とその手撰本」4頁

「楊舟 東川徳治年譜考」江戸恵子『法学志林』92-4 政法大学法学志林協会1995年3月¹³によれば、東川は明治19(1886)年から21年まで奥宮暁峯らに師事し経学を学んでいる。当時の附属図書館職員にとって、『別置本目録』名家との距離はかなり近いものであった。

慥斎の子正治は宮城控訴院検事長として、仙台に住んでいたことがある¹⁴という。奥宮健之とは兄弟である。

11 レファレンス協同データベース https://crd.ndl.go.jp/reference/modules/d3ndlcrdentry/index.php?page=ref_view&id=1000064678 三重県立図書館提供 参照
12 引用者注:東川氏については「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(二) -昭和36年版『東北大学附属図

書館別置本目録 増訂稿』刊行まで -大原理恵『東北大学史料館紀要』9 2014年3月 75頁参照
13 『支那法制史研究』(アジア学叢書 61)大空社 1999年に修訂再録
14 『仙台人名大辞書』菊田定郷編 仙台人名大辞書刊行会 昭和8(1933)年

【東條弘】

東條弘(一堂)関連書も狩野文庫に多数含まれており、刊本の書入本が多く、特別本となっているが、それらも注目されてきた。老子道德真經 狩2-2253-1(特別本)については、次のような評価がある。

著す所の老子標識は〔宇佐美〕瀧水の刻した王〔弼〕注老子の欄外に記入したもので、その原本は東北帝国大学附属図書館に収蔵せられて居る。本文註文に朱黄を加へ欄上に溢るゝほどの書入れがある。(中略)要するに彼は王弼本を校定することによって老子を最も古い形にかへし、而して後其正確な解を得ようと努力したものである。(中略)然しその校定の正確なこと、時には押韻を検して是非を決し、時には註中に引かれた文章によって経文を正すなど、一々首肯せざるを得ない証拠をあげて論を進めて居る。

『老子』岩波文庫 武内義雄訳註 岩波書店 昭和13(1938)年
 【附録】「日本に於ける老荘学」五 折衷学派の老荘学
 [波多野太郎¹⁵の発言]私今から二十五年前に東北大学の図書館へ通いまして、あの寒い晩を八時頃迄図書館に籠つておりましたが、その時にバツタリぶつかったのが、(中略)東北帝国大学の狩野文庫にありました「老子標識」でございます。これには実に圧倒されました。何故かと申しますと、先づその学問の方法論が非常に科学的である。

「東條一堂遺著出版記念會記」『斯文』47 斯文会 昭和41(1966)年12月 52頁

なお、武内義雄旧蔵書は、2010年に附属図書館に寄贈をうけ、武内文庫として保管されているが、そのなかから老子道德經(舊鈔本河上公注道德經) 字-1048 が2017年に貴重図書に指定された。

呂氏春秋 乙A1-3,7-3 江戸刊 には「鵬齋先生手沢本」との書付がある(写真27)。筆者の記憶ではさらに古書肆の札が添えられそれに東條一堂書入と書かれていたはずだが、現在確認できない。

『東北大学蔵中国学関係 貴重図書展示会目録』日本中国学会大会開催記念 東北大学中国学研究室・東北大学附属図書館 昭和36(1961)年9月¹⁶ には、特に「東條一堂関係書」として稿本のほか書入本を示している。

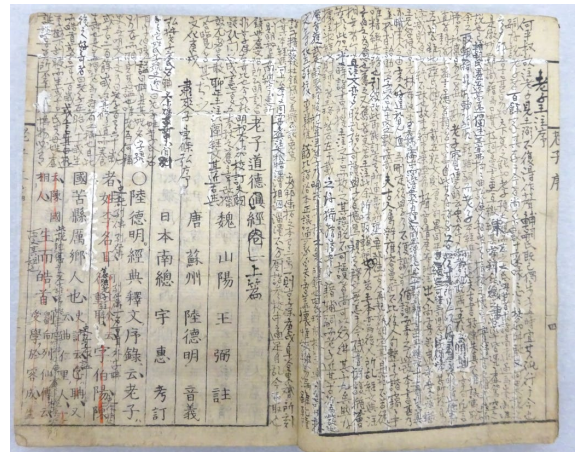


写真26 老子道德真經 王弼註 宇佐美惠考訂 狩2-2253-1

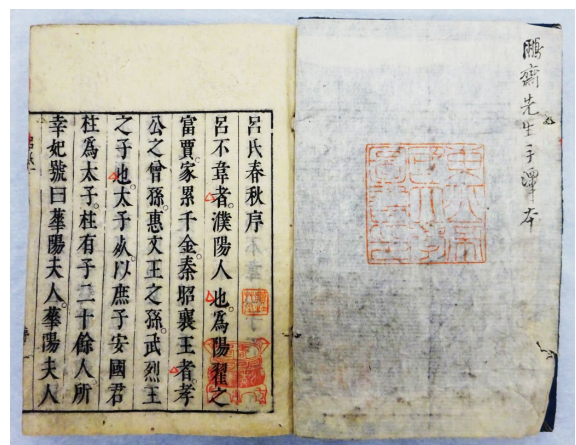


写真27 呂氏春秋 乙A1-3,7-3

『別置本目録』では、東條弘(一堂)関連書の配列は書名五十音順であったが、『貴重図書目録』では分類順とした。ただし、論語字義 伊1-236 は孝經資考 伊1-231 の後、孟子字義 伊1-233 の前に置くべきであった。

【未完】

おおはら りえ, 学術資源研究公開センター助教・附属図書館協力研究員

15 『老子道德經研究』波多野太郎 国書刊行会 昭和54(1970)年 参照。

16 矢島文庫UP-808